

個別事業説明書【PR版】

公営企業管理局

1 病院事業会計負担金

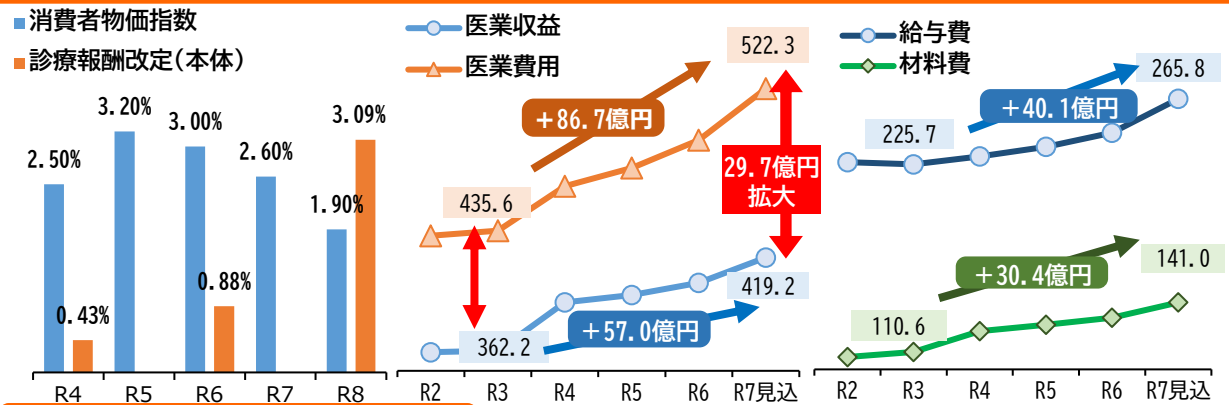
病院事業の経営に伴う収入をもって充てることが適当でない経費や能率的な運営に伴う収入のみをもって充てることが客観的に困難であると認められる経費について、地方公営企業法及び総務省の繰出し基準に基づいて、一般会計から負担金を繰り入れる。近年、診療報酬改定による増収が見込めない中、人件費の上昇や物価高騰の影響等により、病院事業の赤字が拡大しており、政策的医療の維持が困難なため、一般会計負担金を増額する。

指標	施策	30 医療体制の整備 KGI 県内の医療施設に従事する医師数	現状値 3,739人（R5年） 目標値 3,819人（R8年）
	細施策	30-9 県立病院の健全経営 KGI 資金不足比率（資金不足が生じていない状態を0とする）	現状値 0（R6年度） 目標値 0（R8年度）

お問い合わせ先
公営企業管理局
総務課
(089-912-2792)

事業イメージ	KPI 経常収支比率	現状値 91.7%（R6年度） 目標値 100%（R8年度）
--------	------------	-----------------------------------

県立病院の厳しい経営状況
R4、R6年度の診療報酬改定率が物価上昇を大きく下回っており、物価や人件費の高騰により、県立病院の経営状況は大幅に悪化しているため、R5、6、7年度と連続して大幅な赤字決算となる見込みである。看護師の増員や病床稼働率の向上により収支改善に努めるが、R8年度の診療報酬改定でも大幅な増収は見込めないことから、大変厳しい経営状況となっている。



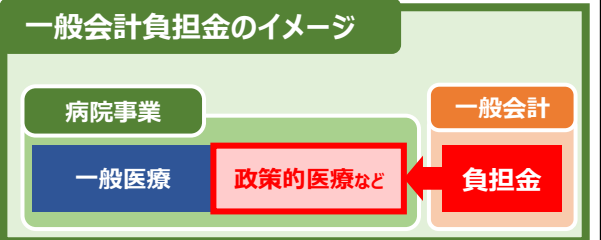
政策的医療の赤字の拡大
政策的医療において赤字額が拡大しており、採算性、経済合理性等から民間では対応が困難な救命救急、周産期、高度小児医療の赤字を補填するため負担金を増額する。

政策的医療の赤字		R5年度 赤字額	R6年度 赤字額	R7年度 赤字額(見込)	R8年度 赤字額(見込)
救命救急センター		▲12.9億円	▲14.3億円	▲16.6億円	▲17.2億円
周産期センター		▲13.0億円	▲13.5億円	▲14.4億円	▲14.8億円
小児医療		▲1.4億円	▲2.0億円	▲2.1億円	▲2.0億円
小計		▲27.3億円	▲29.8億円	▲33.1億円	▲34.0億円
へき地病院赤字 など		▲23.0億円	▲26.6億円	▲34.1億円	▲34.0億円
合計		▲50.3億円	▲56.4億円	▲67.2億円	▲68.0億円

事業概要	(千円)			
一般会計負担金の内訳	8年度	7年度	増減	繰出基準
救命救急センター運営費負担金	1,721,959	1,433,045	288,914	収支差
周産期センター運営費負担金	1,479,236	514,395	964,841	収支差
小児医療運営費負担金	202,551	20,292	182,259	収支差
医師研究研修費負担金	23,865	22,819	1,046	医師研究研修×1/2
結核等病床運営費負担金	31,658	33,614	▲1,956	収支差
病理解剖経費負担金	30,009	29,647	362	所要経費
基礎年金拠出金負担金	805,770	750,610	53,236	拠出金所要額
共済組合追加費用負担金	176,811	221,988	▲45,604	追加費用所要額
院内保育所運営費負担金	101,975	90,722	11,253	収支差
不採算地区中核的病院負担金	37,907	36,687	1,220	所要経費
建設改良費負担金	2,452,649	2,305,751	146,898	企業債償還額×1/2
計	7,064,390	5,459,570	1,604,820	

地方公営企業法（第17条の2：経費負担の原則）により、以下の経費については、一般会計が負担するものと規定されている。
① その性質上、当該地方公営企業の経営に伴う収入をもって充てることが適当でない経費（救急医療等）
② 当該地方公営企業の性質上、能率的な経営を行ってもなお、その経営に伴う収入のみをもって充てることが客観的に困難であると認められる経費（周産期等高度・特殊医療に要する経費）

	R8年度 予算額	R7年度 既計上予算額
救命救急センター	17.2億円	14.3億円
周産期センター	14.8億円	5.1億円
小児医療	2.0億円	0.2億円
小計	34.0億円	19.6億円
その他の負担金	36.6億円	34.9億円
合計	70.6億円	54.6億円



2 県立今治病院移転新築関連事業費

令和8年度当初予算（案）
予算額 177,610千円

老朽化・狭あい化が進む県立今治病院（昭和58年築）について、今治新都市へ移転新築することで、今治圏域内で将来にわたって安定的・継続的に良質な医療を提供する。

お問い合わせ先
公営企業管理局
県立病院課
(089-912-2816)

指標	施策	30 医療体制の整備 KGI 県内の医療施設に従事する医師数	現状値 3,739人（R5年） 目標値 3,819人（R8年）
	細施策	30-9 県立病院の健全経営 KGI 資金不足比率（資金不足が生じていない状態を0とする）	現状値 0（R6年度） 目標値 0（R8年度）

事業イメージ	KPI	県立今治病院整備事業の進捗状況 (R8年度中に進捗率0.6%(基本設計完成)を目指す)	現状値 -（R7年度） 目標値 0.6%（R8年度）
		県立今治病院整備事業契約の締結	現状値 0%（R7年度） 目標値 100%（R8年度）

今治病院における現状と課題

圏域において最多の病床を有する中核病院として、救急医療、小児・周産期医療など政策的医療を中心に地域医療を担っているが、建築後42年を経過し、老朽化・狭あい化が進行



今治病院が担うべき機能・役割を明確にするため、愛媛県立今治病院老朽化対策基本計画をR7年5月に改訂

今治病院の移転新築に着手（R7年9月19日公告）

整備スケジュール（想定）



事業概要

1 県立今治病院整備事業費

(1) 概要

移転地	今治市しなみの杜1番2(市有地)	整備建物	病院棟、医師・看護師宿舍
許可病床数	215床	診療科	24科
その他	・圏域内唯一の災害拠点病院として免震構造、屋上ヘリポートを新たに整備 ・圏域内唯一の地域周産期母子医療センター（NICU3床・GCU6床） ・感染症病床4床を新たに確保し、第二種感染症指定医療機関として整備 ・病院棟をZEB Orientedへ適合※ 等		

※高効率な設備システムの導入等により、大幅な省エネルギー化（エネルギー消費量を30%以上削減）を実現した建築物

- (2) R8年度予算額 128,316千円
- (3) 債務負担行為限度額 20,986,792千円
- (4) 債務負担行為設定期間 R9年度～12年度

2 県立今治病院整備推進事業費

(1) 概要

事業者選定のため県立今治病院整備検討委員会を運営するとともに、事業者選定及び選定後のモニタリングや医療機器整備計画の作成等を円滑に行うため、医療・建築等の技術を有する専門のコンサルタントにアドバイザー業務を委託する。

(2) R8年度予算額 49,294千円